

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 ＜英訳＞	ILASセミナー：文学とは何か ヴァレリー 対ブルトン ILAS Seminar :What is literature? Valery vs. Breton			担当者所属 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール (対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	8 (8) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	文学部校舎 8階仏文研究室 (L830) (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	フランス文学 / 文学論 / 芸術論						
[授業の概要・目的]							
「文学とは何か」という問いは尽きることなくその答えもまた数知れないが、20世紀前半のフランスにおいてこの問いは先鋭化し、正反対の考え方が生まれた。「文学は知性の祝祭だ」という者と「文学は知性の崩壊だ」という者が対立し、「作品は決して完成しない」という考えと「作品は常に完成している」という考えが衝突する。 ポール・ヴァレリー（Paul Valéry, 1871-1945）とアンドレ・ブルトン（André Breton, 1896-1966）はこうした対照的な文学観を代表する名であり、前者はしばしば新古典主義と形容され、後者はシュルレアリスムの創始者である。20世紀フランスの新旧論争とも言うべき両者の対立は文学や芸術について考えるためのヒントに満ちている。 本授業ではヴァレリーとブルトンを中心に、対極をなす思想を比較検討することで「文学とは何か」「芸術とは何か」という問いを深めることを目指す。							
[到達目標]							
20世紀フランスにおける対極的な文学観を理解し、そのうえで自分自身の見解を述べられるようになる。また批評的読解の基礎を身につけ、学問的な質疑応答の仕方や小論の書き方を習得する。							
[授業計画と内容]							
基本的に以下の計画に従って進めるが、授業の進み具合や受講生の理解の程度に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。							
第1回 イントロダクション（ヴァレリー、ブルトン、シュルレアリスム等の紹介） 第2-6回 ヴァレリーの文学論とブルトンの文学論の比較検討 第7-8回 ヴァレリーの詩や散文を読む 第9-10回 ブルトンをはじめシュルレアリストたちの詩や散文を読む 第11-14回 受講生による発表と議論 第15回 フィードバック							
[履修要件]							
特になし							
----- ILASセミナー：文学とは何か ヴァレリー対ブルトン(2)へ続く↓↓↓							

[成績評価の方法・観点]

授業における議論への参加（50%）、授業における発表の内容にさらに考察を加えたレポート（50%）。到達目標の達成度に基づき評価するが、問題を多角的にとらえた上で、総合的な視点と独自の見解を示すものについては特に高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

配布された資料をあらかじめ読み、授業までに自分なりの感想や意見や質問を考えておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

質問などは授業時間のほかメールでも受け付けます（toriyama.teiji.2r@kyoto-u.ac.jp）